

# 草の根通信 NEWSLETTER No.35,36 <2002.12.20>

ジョン万次郎ホイットフィールド記念

(財)国際草の根交流センター

## <広島大会(10月)・テキサス大会(11月)終了!!>

### 広島が沸いた1週間!

2002年10月7日(月)~15日(火)に広島で開催された「第11回日米草の根交流サミット・広島大会」が無事終了しました。

アメリカの同時多発テロ事件による延期など様々な壁を乗り越えて、数多くのボランティアが自分たちの力で築き上げた大会は、アメリカ人参加者約500名にボランティア&ホストファミリーなど約1200名と総勢約1700名の規模で幕を明けました。参加者は広島を舞台に「平和セミナー」、「ユースセミナー」、「日米草の根音楽子供交流演奏会」など様々な特別プログラムに加え、広島市分科会6、地域分科会17、特別分科会1、オプション・プログラム3、とバラエティに富んだ大会を十二分に楽しんでの帰国となりました。今大会の特徴として、児童合唱団やユースオーケストラなどアメリカより6団体、岩国基地より1団体など総勢260名の子供たちが参加しました。その歌声や演奏は平和を願う広島の人とアメリカの心をつなぐにまこと、感動を呼び起こし、未来へのメッセージを日本に残していきました。グリーンの蛍光色ジャンパーをまとったボランティアで町は埋め付くされ、参加者は「これほど多くのボランティアが1年以上も前から準備に励み我々を受け入れてくださって、これほど感動したことは今までにない」と、歓喜の声を漏らしていました。21世紀最初の大会となったこの広島大会ではお互いのホスピタリティや文化の違いを改めて再確認する大会となりました。

### 広島市分科会

開催日 : 10月10日(木)

広島分科会 : 「午前の部」  
平和セミナー  
「午後の部」  
: 6(福祉1、福祉2、環境、NPO活動、コミュニティー活動)



### 地域分科会

開催日 : 10月11日(金)~13日(日)

地域分科会 : 17  
三原市、尾道市、因島市、福山市、三次市、庄原市、大竹市、東広島市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、蒲刈町、加計町、千代田町、新市町、作木村  
特別分科会 : 1(農業交流)



### オプション・プログラム

開催日 : 10月14日(月)~16日(水) \*京都のみ17日(木)

オプション : 京都(60名) \* 3P参照  
: 静岡(11名+ Colorado Springs Summit Ensemble 40名)、  
: 庄内(12名+ Colorado Springs Pikes Peak Singers 45名)



# 開会式&歓迎レセプション

開会式&歓迎レセプション: 10月9日 会場「広島国際会議場」 総勢約1,200名



## 「開会式」

総勢1200名以上が集まったフェニックスホールで、渡辺一秀広島大会実行委員会委員長の開会宣言で始まり、アメリカ人中高生のブラスバンドによる演奏などで大会の幕は開かれました。

## 「歓迎レセプション」

続いて、一般参加者と青少年の2つに会場が分かれ、一般参加者の会場では、秋葉市長による挨拶が行われた後、日本酒の鏡割りがあり各テーブルでお酒を楽しみつつ懇談の和が広がりました。一方、青少年の会場では、お好み焼きなどの屋台があり、輪投げなどのゲームに、ステージでは迫力ある太鼓の演奏など、こちらも大盛況でした。



# フェアウエル・パーティ

## フェアウエル・パーティ

10月13日 会場「広島全日空ホテル」

総勢約2,000名

各地域のホストファミリーやボランティアも参加し、広島大会成功を祝い、別れを惜しみながらも未来への約束を確認する感動のパーティでした。



# 特別プログラム

## 特別プログラム

### 「ユースセミナー」

10月10日 会場「平和記念公園」 総勢約200名(合唱団&引率者)

日米の若者が共に歩み寄り、平和記念公園内を見学し、未来に向けての平和について考えてもらうことを目的として開催されました。企画の段階から学生ボランティアが勉強会や合宿など若者の目線で広島を考え、セミナー当日は参加者と学生ボランティアでグループを作り、何度も下調べをした平和記念公園を散策しながら『平和』というテーマを通して交流を深めました。

### 「日米草の根音楽こども交流演奏会」

10月10日 会場「広島国際会議場」 総勢約1,000名

米国及び日本国内からアメリカ人合唱団やブラスアンサンブルの団体約260名と広島県内の合唱団体など約180名との音楽を通じたこども交流演奏会がフェニックスホールで開催されました。会場はほぼ満席の大盛況で、各団体ごとに特色ある演奏や歌声を響かせ、大勢の聴衆の心を感動させました。最後は合同合唱による日米コラボレーションも大成功に終え、その幕を閉じました。

(アメリカ側参加団体)

- ・Chicago Children's Choir(シカゴ) 28名
- ・Colorado Springs Pikes Peak Singers(コロラドスプリングス) 37名
- ・Colorado Springs Summit Ensemble(コロラドスプリングス) 34名
- ・Colorado Springs Brass Ensemble(コロラドスプリングス) 9名
- ・Houston Children's Chorus(ヒューストン) 28名
- ・Northwest Girlchoir(シアトル) 58名
- ・M.C. Perry High School Brass & Chorus(岩国基地) 64名

(日本側参加団体)

- ・広島少年少女合唱連盟加盟団体 180名程度
- ・広島少年合唱隊(広島市)
- ・広島ジュニアコーラス(広島市)
- ・ひろしま少年少女合唱団(広島市)
- ・呉少年合唱団(呉市)
- ・東広島児童合唱団(東広島市)
- ・みよし児童合唱団(三次市)
- ・広島ジュビター少年少女合唱団(広島市)

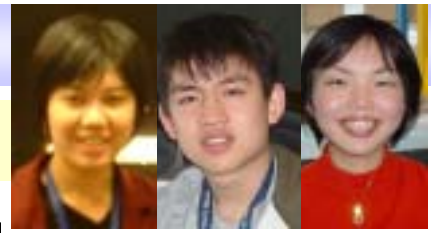




# オプション・プログラム

京都オプション・プログラム <http://homepage3.nifty.com/Compa-us/>  
大成功！学生ネットワーク“Compa-us”！

アメリカ側 62名、日本側 約80名(CIE、Compa-us、ボランティア、ホストファミリー等)



入山美保 濱武英 竹野真由美

私達Compa-usは10月14～17日(3泊4日)の京都オプション・プログラムに参加しました。元々Compa-usは京都大学のボランティアグループでしたが、今年8月に様々な出会いを通じ、関西外国語大学IGC(通訳ガイド部)・グッドサマリタンクラブ(ボランティアガイドクラブ)が仲間入りをしました。プログラム全体を学生が中心となり企画・運営したことが大きな特徴です。プログラム初日14日、サミット開催地であった広島から約60名の若者が京都に来ました。



いよいよプログラム開始です。まずは参加者と学生がいくつかのグループに分かれ、昼食をとりました。その後、ウエルカムパーティーでは歌謡舞踊を披露し、参加者自らも浴衣を着て盆踊りをしました。いよいよ、夜はホームステイで日本の日常生活体験です。そして第2日目・15日からがプログラム本番です。朝9時に各ホームステイ宅から京都駅に集合、観光プランに参加します。参加者は事前に8つのコースから興味のあるものを選びました。寺院や観光地をめぐるコースに加えて、メンバーの個性を生かしたコースが魅力的でした。例えば、所属している演劇部で劇を披露したり、師範の免許を持った学生が書道教室を行ったりしました。各コースにはそれぞれ学生が同じ味も違った経験ができました。観光を終え京都駅に戻ってきた時の参加者とメンバーの楽しそうな表情は今でも忘れられません。その後、ホームステイ2日目の夜を過ごし、第3日目・16日も一日観光、京都を存分に堪能してもらいました。16日は京都での最後の夜、日本そして京都をもっと身近に感じてもらうため、ホームステイではなくお寺に宿泊しました。ホームステイを通して布団で寝ることにはなれていないようですが、裸だけで仕切られた部屋や大浴場に驚いていた参加者もいました。最終日・17日はお寺で典型的な日本の朝食をとり、空港へ向いました。60名の参加者を無事お見送りし、京都プログラムが幕を閉じました。

私達にとって今回のプログラムは全てが挑戦、右を向いても左を向いても初めての経験ばかりでした。加えて、学業と重なり全員で集まることも難しかったです。しかしその分、各自が自分の行動に責任を持ち互いに協力できたのではないかと思います。その証に新生Compa-usが誕生してわずか3ヶ月ですが、皆とても仲良くなりました。また、柔軟性をもって物事を色々な角度から見られるようになり、何事にも好奇心をもって取り組めるメンバーが増えました。これからも私達にできることから始め、楽しい交流のプロデュース・コーディネイトに携わっていきたくと考えています。

## 静岡オプション・プログラム！ 第9回大会開催地へ

沼津市 企画部 地域づくり推進課 国際交流室  
室長 関野昌宏

「はい、わかりました。32人ですね。」自信をもって応えはしたが、内心では「2ヶ月余の期間で32人という人数の受け入れとは...」。それでも市民の皆さんの国際交流にける熱意に助けられ、特に問題も無く、スムーズに受け入れを行うことができました。

むしろ成田から沼津に直行、翌日は中学校での合唱交流を行い、3日目の朝には広島に向け出発、というスケジュールに、ホストファミリーから「スケジュールがきつすぎる。これではかわいそう。」という苦言が寄せられるほどでした。

沼津に到着し、彼女達の疲れた顔を見たとき、「明日の合唱交流会は大丈夫かな。」と一抹の不安が頭をよぎりましたが、当日、彼女達の歌声を聴いた瞬間、その不安は吹き飛びました。その美しい歌声は、まさに「北米で最も優秀な合唱団」という名に相応しく会場を圧巻、聞く人を魅了しました。特に「赤トンボ」を日本の中学生と日本語と一緒に歌うのを聞いたときは、感動する心を抑えきれませんでした。合唱団の皆さん、今度はゆっくりと私達の町をお尋ね下さい。



## 庄内オプション・プログラム！ コロラドスプリングス遊佐町プログラムについて

山形県遊佐町 総務企画課 企画係  
主事 土門良則

40名もの大勢の外国の方を遊佐町で受け入れたのは今回が初めて。それでも我が町はこれまでの国際交流事業の実績の賜物というか、懐の深さというか、町民の皆さん方の協力により、サミットアンサンブルの皆さんの受け入れに際して、さほど苦勞をしなかったのはとても有難かったです。

来日されてから8日目、疲れもちょうどピークに達すると思われるその時期に、広島からその日の内に庄内空港に降り立った皆さんは、心配をよそに元気いっぱいに見えました。さすがに若さでしょうか。その通り遊佐高校、遊佐中学校、稲川小学校、遊佐幼稚園での交流でも持ち前の明るさで子どもたちとふれあってくれました。みんな、とてもいい表情をしていて、やさしい子たちなんだなあとしみじみ思いました。

さすがに感動したのは、コンサート。アメリカでも5本の指に入るといわれるその歌声を見事に披露してくれました。そのバリエーションの豊富さもさることながら、私事になりますが、久しぶりに鳥肌の立つ、すばらしい歌声を聴かせていただきました。会場の拍手が曲を追う毎に大きくなっていくのがとても印象的でした。



# Thank You, TEXAS Volunteer ! (テキサス大会編)

2002年11月12日(火)～19日(火)にテキサス州で開催された「第12回日米草の根交流サミット・テキサス大会」は、広島大会の1ヶ月後の開催となった記念すべき21世紀最初のアメリカ大会となりました。参加者総勢150名となったテキサス大会は5つの地域分科会に分かれ「古き良き時代のアメリカ」を体験しました。さらにこのテキサス大会の特別プログラムとして、アメリカ発展の象徴ともいえる宇宙開発「NASA/ジョンソン宇宙センター」で特別ツアーを行いました。さらに、その翌日に日米の宇宙飛行士(日本側は向井千秋さん、アメリカ側はMr. Kevin Kregel/ケビン・クレーゲル氏)と参加者との間で交流会が持たれました。向井さんやクレーゲルさんからは各国から集まる宇宙飛行士の人間関係を国際交流に結び付けてお話を頂き、参加者は地域分科会でホームステイをするにあたっての貴重な意見を聞くことが出来ました。



コアボランティアのメンバー



ウエルカム・パーティもフェアウエル・パーティも現地側ボランティアの努力と交流に対する気持ちに直に感じ取れるアットホームなものとなりました。ウエルカム・パーティでの児童合唱団による歓迎コーラスにはじまり、貴重な体験となった総領事公邸でのウエルカム・レセプション、ロデオショーで始まり、最後にはみんなで踊ったフェアウエル・パーティ、など現地側ボランティアの心と参加者の心が一つとなって通じ合い、交流の素晴らしさを改めて実感し、21世紀を迎えた日本とアメリカがより身近に感じることが出来た大会でした。テキサスは参加者にとって第2の故郷になったといっても過言ではないでしょう。

地域分科会 : 5 San Antonio, Austin, Nacogdoches, College Station, Houston  
 オプション : 2 Boston & N.Y., Colorado Springs





## 開会式&歓迎レセプション



### 「開会式&ウエルカム・カクテル・レセプション」

11月14日 会場「Inter Continental Hotel, Houston」 総勢300名

レベッカ・カーリ テキサス大会実行委員会委員長の開会宣言で始まり、波多野敬雄CIE 理事長の挨拶で開会の幕を明けました。会場には1ヶ月前の広島大会にも参加したHouston Children's Chorusの子供たちが歓迎の歌声を披露し、さらにウエスタン・ダンスなどの催し物がありました。隣に用意されたカクテル・レセプション会場では子供たちによるバイオリンやピアノの演奏会をバックに食事をとりながらアメリカ人ボランティアなどと交流を深めました。

### 「ウエルカム・レセプション」

11月14日 会場「ヒューストン総領事公邸」 総勢200名

開会式の会場を後にした参加者は在ヒューストン天野万利 総領事の公邸に招待されました。初めに小沢一郎会長の挨拶で盛り上がり、会場では食事を囲みながら参加者同士で次の日から始まる地域分科会に不安と希望を語り合いながら、日本人同士の交流を楽しみました。総領事公邸でのパーティということで、参加者はその貴重な経験を喜んでいました。

## 特別プログラム

### 「NASA /ジョンソン宇宙センター& Keemahツアー」

11月13日 会場「NASA/ジョンソン宇宙センター& Keemah」

総勢100名

開会式前日のフリータイムにテキサス・ボランティアのおすすめツアー「NASA/ジョンソン宇宙センター& Keemahツアー」を実施致しました。ほとんどの参加者が参加したこのツアーはアメリカを代表する宇宙開発最先端技術と歴史を見学することが出来ました。英語でのツアーも通訳ボランティアにより円滑に進められ、宇宙センターを後にした参加者はメキシコ湾に添う景観のいいショッピング&レストランがあつまるキーマを訪問し、アメリカの雄大な景色を楽しみながら買い物などをされました。

### 「宇宙飛行士との交流会」

11月14日 会場「Inter Continental Hotel, Houston」

総勢140名

出演者：日本人宇宙飛行士、向井千秋さん  
：米国人宇宙飛行士、ケビン・クレーゲル氏

日米宇宙飛行士による「宇宙開発及び宇宙飛行士における国際関係」についての談話を草の根国際交流に置き換えてお話をして頂きました。参加者は初めて会う向井千秋さんのお話に感動し、Q&Aでは2人の宇宙飛行士は時間がすぎても終始丁寧に答えていました。



## フェアウエル・パーティ

11月17日 会場「ジョージ牧場」

総勢250名

地域分科会を終えて再びヒューストンに戻ってきた参加者は、テキサスで最も古い牧場でフェアウエル・パーティに参加しました。ロデオのパフォーマンスで始まったパーティは、来年の日本開催の千葉大会のPRや学生の感謝の辞などの挨拶が終わった後、テキサス料理を堪能しながらダンスなどを楽しみました。最後までボランティアの心が滲み出ているプログラム内容でした。



# 企業研修参加者レポート!!

## 第11回 日米草の根交流サミット・広島大会『企業研修参加』無事終了!

第11回日米草の根交流サミット・広島大会が10月9日(水)～13日(日)広島市において開催されました。今回の大会は、米国同時多発テロ事件の影響により、1年延期という過去に例のない事態となったにも関わらず、ボランティアスタッフをはじめ、関係者の努力により、前回に増しての多数のアメリカ人ゲストが参加され大変印象深い大会となりました。そんな中、私たち企業研修参加者(9名)もそれぞれの思いを胸に大会に臨みました。

### 大会初日(開会式、歓迎レセプション)

広島国際会議場を埋め尽くす参加者の中、渡辺一秀大会実行委員会会長の開会宣言が行われ、波多野理事長、藤田広島県知事、アレキサンダー・アルマゾフ駐大阪・神戸米国総領事の挨拶を聞き、改めて、この大会の趣旨と期待、そして私たち参加者の責任の大きさを感じました。

### 広島市分科会、特別プログラム

大会2日目、私たち企業研修参加者は、広島市分科会と特別プログラムに参加しました。

分科会では、「起業家精神が社会に与える影響」をテーマとした分科会に参加し、日本の学生によるビジネスプランのプレゼンを日本企業の代表として、米国の参加者と一緒になって議論し、評価することで相互理解と親睦を図りました。

特別プログラムでは、米国(7団体)と広島(7団体)の児童合唱団・ユースオーケストラによる「日米草の根音楽こども交流演奏会」が行われ、音楽を通じた日米の青少年の交流を私たち参加者も観賞しました。

### 最終日(フェアウェルパーティ)

すべての企業研修プログラムが終了した最終日にフェアウェルパーティが行われ、大会に携わった総勢1千人が別れを惜しむとともに本当の交流がここからスタートしました。今回、私たちは、それぞれの企業の課題を達成することを目的に参加しましたが、最後は、みんな同じに、お互い(異文化・異習慣)を尊重しあう気持ちの大切さを会得することができました。



### 地域分科会

大会3日目からは、各地域で行われている、地域分科会に参加しました。17の市町村にてそれぞれ工夫を凝らした分科会が行われる中、企業研修参加者は、ボランティアが不足している地域に参加し、積極的に通訳や運営準備など、現地スタッフを支援するとともに米国参加者との親睦を図りました

## 第12回 日米草の根交流サミット・テキサス大会「感動と新鮮！」

我々は企業研修生として参加させてもらった事から、一般参加者向けのプログラムの他に米国ビジネスマンとの交流会(ランチョン)がプラスされていて、その分準備等によりハードなスケジュールとなったが密度も濃くとても有意義であった。まずサミット開始1ヶ月前位から日本側メンバーで集まり、それぞれテーマを上げてもらったのち、米国側カウンターパートにコンタクトをとって、話し合うテーマや進め方について擦り合せを行った。その結果主に下記の3つを中心に話し合う事を決めて本番に臨むこととした。日米のIT利用実態の比較、日米の文化・生活習慣の違い、仕事と家庭の位置付けについて、ランチョンの会場はメイン会場から歩いて10分位の場所にあるThe University Clubという高級会員制クラブみたいところで行われた。最初は皆緊張していたみたいだが、直ぐにお互い打ち溶け合って話がとても弾んだ。テーブルは4つに別れていて各テーブル6～7名で、米国側は大学教授や会社社長、弁護士で、中には日本に住んだ事がある人や米国在住の日本人もいるなど様々なバックグラウンドを持った方が参加していたため、様々な視点での話を聞く事ができた。実際に話し合われた内容は、例えば企業におけるドレスコードと企業文化について、インターネット接続形態の日米の違い、米国と日本との地理的条件や歴史的背景の違いから来る習慣の違いについてなどで、あらかじめテーマを3つ設定していたものの、それぞれがテーマとして大きいため、テーブル毎にそれぞれ違った切り口で有意義な会話が展開された。交流という、ビールでも飲みながらのくだけた交流をついついイメージしてしまうが、このようにすこし固めな雰囲気ですら直意見交換もいよいよのだった。

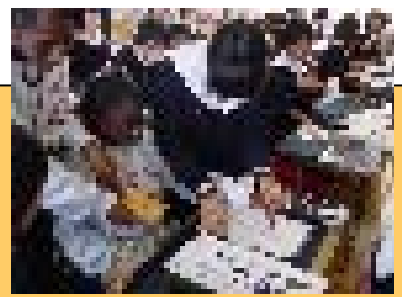
最後に実りあるランチョン実現にご尽力くださった、ジェトロ・ヒューストンの前川さんをはじめ、サタケUSAの柴田さん、財団事務局の方々等、そして日米参加者の方々に感謝したい。





## エバンズビルユースオーケストラ・栃木市訪問交流プログラム

2002年11月24日(日)~11月30日(土)、栃木市と東京都内で「エバンズビルユースオーケストラ・栃木市訪問交流プログラム」が開催されました。



このプログラムは、第10回インディアナ・イリノイ・ウィスコンシン州大会で地域分科会の一つを受け入れたインディアナ州エバンズビル市と姉妹都市である栃木市との継続した交流として、地元のユースオーケストラと栃木県立栃木女子高等学校のコーラス部・オーケストラ部との姉妹都市音楽交流として行われました。エバンズビル市から来日した子供と大人総勢約80名は栃木市で2泊3日のホームステイを行いながら、ジョイント・コンサートや学校訪問、交流プログラム、日光での半日観光などの日程をこなしました。その後、東京を訪れた一行はオリンピックセンターにその滞在先を変え、昭和女子大学でコンサートと交流プログラムを行い、東京観光も兼ねた交流プログラムをいくつか体験しました。最後の夜はアメリカでは感謝祭ということで、東京都内のレストランで自主的にパーティを行い、改めて初来日の喜びを実感していました。アメリカのローカルな町の子供たちにとっては、とても遠かった日本でしたが、直接来日し交流することによって初めて日本文化や日本人を知ることが出来ました。学生の中には「こういう機会がなければ日本にくることなど考えもしなかった」と、その交流の貴重さを語っていました。



## 栃木県立栃木女子高等学校コーラス&オーケストラ部・エバンズビル市訪問交流プログラム

**さらに!** 11月に開催されたプログラムとは逆に、今度は栃木県立栃木女子高等学校のコーラス&オーケストラ部の学生105名がエバンズビル市を訪問し、コンサートや交流プログラムを2002年12月26日(木)~2003年1月4日(土)の期間で実施します。

生徒たちはシカゴを2日間訪問した後にエバンズビル市を訪問し、同市一大イベントであるニューイヤーズ・コンサートにゲスト出演として演奏することが決定しています。さらに教会での演奏会など数多くの交流が現地側ボランティアとユース・オーケストラで企画されています。高校生たちにとっては、新年を異国のアメリカで迎えることが出来る貴重な体験となるでしょう。

# 第1回 CIEセミナー開催決定!

今年で第12回大会を終えた国際草の根交流センター(CIE)は、そのノウハウとネットワークを未来の子供たちへ受け継ぐため、東京で全国の大学生を対象に“日米草の根交流サミット大会”のセミナーを実施致します。

- 日程** : 2003年2月27日(木)~3月2日(日) <3泊4日>  
**会場** : 国立オリンピック記念青少年総合センター  
住所: 渋谷区代々木神園町3-1  
T: 03-3467-7201 F: 03-3467-7797  
URL: <http://www.nyc.go.jp>
- 対象** : 全国の大学生  
**プログラム内容** : CIEセミナー「日米の国際交流に関係の深いCIE、外務省、企業、大学などの関係者をゲストとして招き、セミナー及び交流会を実施」  
留学生との交流会「東京在住の留学生およびJETの方との交流会」  
グループ・ディスカッション「各地域から集まったグループとの交流会」  
ウエルカム・パーティ「国際交流に熱心な学生やこれから始めようとする学生の率直な意見交流会」
- 参加費** : 一人=3,750円  
宿泊費=1,150円×3泊(税・サ込み)=3,450円\*朝食なし (朝食付き=+ 一人/450円×3食=1,350円)  
移動費=現地集合&現地解散  
会場費=一人300円  
\*ウエルカム・パーティ=一人3,000円(希望者のみ)
- 宿泊先** : 国立オリンピック記念青少年総合センター内 宿泊施設  
\*事前にオリンピックセンターに宿泊をご希望の方はCIEまでご相談下さい。
- 申し込み連絡先** : (財)ジョン万次郎ホワイトフィールド記念 国際草の根交流センター(CIE)

## 今月号のお勧め情報!!

世界21カ国のボランティア活動の歴史と実例をまとめた本が出版されました!  
この本は、オランダで出版され、簡易版が3万部の売上を記録した原著を翻訳したものです。具体的な資料や体験に基づいて執筆された本書は、「ボランティア活動とは何か」「具体的にどうすればいいのか」の指針になります。  
お求めはインターネットで! これぞ21世紀型出版!!

- タイトル** : 「世界のボランティア活動 ~各国の歴史と実例~」  
**初版発行** : 2002年10月1日  
**著者** : マルフリート・マリー・ホファート  
ヨダンダ・ケーソム  
アンジェリカ・ミュンツ  
ヘンク・ヤン・ファン・ダール  
**監修・翻訳** : 青木利元  
**翻訳** : 榎田勝利  
石田佳子、磯野昌子、上条直美、桜井高志、  
中村絵乃、松本繁雄  
**発行所** : 株式会社アルク  
〒168-8611 東京都杉並区永福2-54-12  
T:03-3327-1101(カスタマーサービス部)  
T:03-3323-1102(デジタルコンテンツ編集部)  
E-mail:m-team@alc.co.jp



<http://www.alc.co.jp/ondemand/>

